

NPO 温故創新の会 活動本格化



清野理事長

特定非営利活動法人(NPO 法人) 温故創新の会(理事長・清野茂次オリエンタルコンサルタンツ相談役名誉会長)は、組織としての体制が整ったことから、本格的な活動を始める。2006年8月に、建設コンサルタントの第一線を退いた技術者が参加して設立、自らの経験やノウハウを若手技術者に伝承することを目的に、出張講話やセミナーなどを開く。

新技術創造へ若手に経験伝える

清野理事長は、「われわれが経験してきたことを伝えることで、新たな技術を創造できる」と意義を説明する。パソコンが普及する以前は、プロセスを理解しながら手作業で高度な解析をしていたため、設計した図面を見て全体のバランスが悪ければ直感的に判断できたという。現状は、「(パソコンが出した)答えになんの疑問も持たない」ため、バランス感覚の習得にも力を入れる方針だ。

同会は、道路、土質・基礎、橋梁・構造、トンネル・地下空間、品質・プロフェッションの5部会を設置し、土木分野を幅広くカバーする。活動内容は、企業などからの依頼を受け、特定のテーマで少人数の技術者に講話、質疑応答などによって技術を伝承する。大手コンサルは自社で対応が可能だが、中堅や中小など自社では困難な企業を対象とする。

会員数は26人で、ゼネコンや官公庁のOBにも参加を呼びかけ、50人程度まで拡充したい考えだ。財政的に余裕がないため、出張講話などは実費を請求する。正会員は入会金2000円、年会費8000円、企業など賛助会員は年会費が1口2万円(1口以上)となっている。

入会はホームページ(<http://www.onkososin.com>)から申し込み可能。

新NPO法人「温故創新の会」が始動 建コンOB技術者らインフラ技術の継承



清野理事長

社会基盤整備に携わってきたベテラン技術者らが中核となり、次世代に技術やノウハウを継承するための活動を展開していくNPO法人「温故創新の会」(清野茂次理事長)が設立され、本年度から本格始動した。

新NPOの設立は、知識や技術、ノウハウを次世代に継承・普及させる事業を通じ、人づくりやまちづくり、環境保全、国際協力、科学技術の振興などに貢献するのが目的。技術継承、指導教育、技術普及、技術協力、情報発信の各種活動を実施していく。

このうち技術継承については、技術に関する相談や助言、指導、技術講師の派遣、教材の作成などを行う。指導教育事業では能力開発にかかわる個別指導などを実施。一般市民とのコミュニケーションなども積極推進する。

会員は、社会資本整備の業務分野で経験を持ち、業務の第一線から退いた技術者などで構成。

道路▽土質  
および基礎  
▽橋梁・構  
造▽トンネ  
ル・地下空  
間▽品質・プロフェッションの五つの専門部会が中心となってサービスを提供していく。

現在の正会員数は建設コンサルタント会社OBら約30人。当面、土木系技術者による活動が中心となるが、「もともと

の発想は技術全般を対象であり、企業・団体の賛助会員を含めて広く会員を募集していきたい」(清野理事長)としている。事務局は建設コンサルタンツ厚生年金基金内(電話03-6626-9333・3108)。

清野理事長の話 現在のようにならぬにコンピューターに頼った設計では、エンジニアとしてのバランス感覚を養うのは難しい。一つずつ手仕事で経験を重ねてきた世代のノウハウとうまく融合してこそ、相乗効果が生まれる。我々が経験してきたものを伝え、新しい技術が創造されることに期待する。会の名称はこんな思いから「温故創新の会」とした。